

学校だより

令和3年度 第7号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年9月30日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 学びと育ちの秋（前後期の節目）

校長 藤田 忠久

今年度の夏休み明けはハイブリッド式（分散登校＋オンライン）で学校が再開し、教室のつくりと学級規模を生かした岐阜小学校は、他校に先んじて全員登校（＋必要に応じたオンライン）を始め、9月にも各教科・領域の授業を進めることができました。

19の都道府県に発令された緊急事態宣言と8つの県へのまん延防止措置について、新規感染者数が大幅に減少していることなどから全面解除となり、10月には通常の「with コロナ」の学校生活となります。“油断禁物”ではありますが、前期の締め括りと後期のスタートダッシュとして大きな成長が期待できる10月に、一段と学びを進めて大きな成長へと繋げていきたいと思いをします。

9月27日付「10月の土曜日等の教育活動について（お知らせ）」のように、明後日2日（土）には学年ごとに「ふるさと学習」や「親子行事」を行います。岐阜まちや長良川の素晴らしさを体験的に学び、いっそう「ふるさと大好き」の岐阜小っこになることを目指したいと思いをします。

そして、明日（1日）に行う「結団式」からは、一気に「運動会」モードへと切り替えることになりま。10月30日（土）に計画した運動会については、職員会で次のことを確認し合いました。

学校の教育目標「心豊かで自ら求め 学び合う 岐阜小の子」の実現を目指し、運動会は「児童一人一人が力と自信を付け、学級の凝集力を高め、感動を分かち合える学校」に向けた「体育を素材とした豊かな体験学習の場」と捉え、児童が明るく楽しく取り組むことを通して「自分大好き」「仲間大好き」「学校（ふるさと）大好き」の3本柱に迫る機会とする。また、学校の重点である「対話」（積極的なコミュニケーションによる関わり、最適解を追求する話し合い、新たな価値を創造する練り合い）を高める取組とする。そして、教員の「働き方改革」（業務改善）、「withコロナで見直す（後戻りしない）教育活動」という社会情勢を受け、今年度の「運動会」を来年度以降のベースとする。従って、5月に金華地区「市民運動会」があることを踏まえて秋の実施は継続するが、「残暑（猛暑）を避けること」「前期の成績処理と口頭所見の9月には取組をしないこと」等の理由により、今後の岐阜小学校「運動会」は10月末の土曜日に開催する。種目は、奇数学年「個人競技」、偶数学年「団体競技」、低・中・高の学年部「団体演技」、全校児童による「児童会種目」、低・高別「選手リレー」に限定し、午前中に「閉会式」までを完了させる。昼食（持参した弁当）後、午後に「解団式」「後片付け」「振り返り」を行う終日授業日程とし、「文化の日」前後に「振替休業日」を設ける。さらに、運動会の特性と学年の発達段階を鑑み、学年部ごとの願う姿を「夢中になり思いきり“一人一人が楽しむ”低学年」「呼応しながら“仲間と協力する”中学年」「納得を追求して“岐阜小の運動会を創る”高学年」と設定する。競技や演技の種目を作り上げるのではなく、学年の子供を創り上げていくのだという認識のもと、上記の3本柱と学年部の願う姿を、取組の中でどのように実現していくのか、しっかり主張できるように構想を練って臨む。あくまでも、子供たちの生き生きとした姿と目の輝きで勝負する「運動会」とする。※大声を出すことになる「応援合戦」、スキンシップを伴う「ひまわり種目」の在り方については、コロナ終息後に改めて協議する。

本日（10/1）の「結団式」で取組がスタートしますが、秋休み後には各学年での準備や練習が本格化していきます。当日の見学（観覧）等を含め、詳細については後日改めてご案内させていただきます。ご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

学校だより

令和3年度 第6号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年8月30日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## Stay home 夏休み ⇒ hybrid 学校再開

校長 藤田 忠久

過ぎてしまえば、短かったように感じる夏休みですが、東京五輪、記録的大雨、感染爆発、…心を動かしたり、頭を働かせたりしなければならない出来事や案件がいくつもあり、大変多くの「学びの機会」のある夏休みだったように思います。

私自身は、とにかくオリンピックに明け暮れた夏休みの前半でした。結果に一喜一憂しながら各アスリートのバックボーンを知って、感動とともに多くのことを考えさせられました。二十歳前後の若い世代の活躍やコメントからは、夢をもって真剣に取り組むことの尊さ、親の願いや考えに基づく環境の大切さなどを痛感し、究極的な「個別最適な学び」の具体や成果を見た気がしました。また、ボランティア等の関係者のおもてなしが、日本人の思いやりとして賞賛されたことも大変嬉しく思いました。一方で、五輪選手等への誹謗中傷など、世界的な情報社会の闇や課題を目の当たりにした気がしています。

五輪終了後には、活発化した停滞前線の影響で、西日本を中心に記録的な大雨となり、土砂災害や浸水・氾濫、道路冠水が各地で頻発しました。短時間の猛烈な雨が限定的だったことで急速な災害リスク上昇が抑えられたことや、入念な事前退避の呼びかけ等が被害の拡大を防いだ可能性があると言われています。この報道の中で、私が学んだことは「災害時の避難は、結果として例え無事だったとしても、それを『空振りだった』と嘆くのではなく『素振りで力を付けた』と考えるべきだ。」ということです。「命を守るための避難行動をとることを躊躇しない」ということは、防災を考える上で必要不可欠なことだと再認識しました。

そして、この大雨と時期を同じくして、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が急増してしまいました。このままでは岐阜県でも医療体制が崩壊し「救える命が救えない」災害級の事態に陥る危機的な状況から、オール岐阜で「生命の防衛」宣言がなされ、岐阜市独自の緊急事態宣言が発出され、国からの「まん延防止等重点措置」適用～「緊急事態宣言」対象の地域にもなりました。9月12日（日）までの間、岐阜市立小中学校でも「分散地区別登校+オンライン授業のハイブリッド式での学校再開」という対応がとられることになりました。岐阜市では、「生命の安全を最優先」「学びを止めない最善策の実行」を基本方針としながら、「新たな学びのスタイルを確立する契機にする」という意図もあるようです。

これを受けて岐阜小学校では、教室環境や1学級の人数等を踏まえたうえで実態や発達段階も考慮し、1, 2年生とひまわり学級は毎日登校しての対面授業、3, 4, 5, 6年生は金華地域と京町地域に分けての曜日ごとの分散登校とオンライン授業という形で、学校を再開することにします。「黙泳」を浸透させながら力をつけた水泳学習のように、夏休み後も「感染対策を徹底して学びを進めていきたい」と思います。感染急拡大の要因とされているのが、変異ウイルスのデルタ株です。この感染力の強さについて、ある専門家は「従来株が『枯れ葉』に対し、デルタ株は『ひつつき虫』（オナモミの実)のようで、いったん肺などの細胞にくっいたら離れにくい。」と違いを語り、「デルタ株が広がった現状は小さな『ひつつき虫』が空気中に漂っているイメージ」と解説しています。そのため、「効果のある不織布マスクを隙間なく着用すること、今まで以上にこまめな換気、距離をとること、手洗い（手指消毒）などが重要になる。」と強調しています。夏休み明けの学校再開にあたり、デルタ株を体内に取り込まないように感染予防に努めることはもちろんですが、「発熱や症状がなくても、市中感染～家庭内感染によって既にデルタ株を体内にもっている可能性がある」と思って生活する必要があります。自分の命を守るとともに、仲間の命を守る「思いやり」が感染防止対策となることを忘れないようにしましょう。

学校だより

令和3年度 第5号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年7月20日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## “前向き”な意志をもって「楽しむ」夏休みに！

校長 藤田 忠久

昨年度は、コロナ禍で“特別な”短縮「夏休み」でした。2年ぶりに通常期間の「夏休み」が明日から始まります。社会科全国大会に向けて全力で取り組んでいた一昨年（令和元年）の学校便り「夏休み号」には、次のような文章を載せていました。

岐阜小学校では、平成から令和への節目となる3ヶ月半の間に、伝統を大切にしたりしたものや新たな試みを加えたものなど、それぞれに成果を上げ子どもたちの成長につなげることができたと自負しています。小学校生活に慣れて地域への感謝を知りつつある1年生、地域のお店巡りによって「ふるさと」の良さを実感している2年生、社会科の視点で「ふるさと」を学び直している3年生、「ふるさと」の飲料水やゴミ処理などの社会科学習で力を付けた4年生、体験的に「長良川」を学びながら野外学習で一段と伸びた5年生、最高学年としての日常に加えて特別な経験もしながら憧れの姿を示す6年生、…これらの学校生活への「直向き」な取組による成長を、子どもたち一人一人が自信にし、明日からの「夏休み」の自分の生活に生かして欲しいと思います。

私は、子どもたちが「夏休みは楽しかった」と振り返ることができるように、自ら「夏休みを楽しむ」ように心がけて欲しいと思います。「楽しいことをする」と「楽しむ」は似て非なるものです。すぐにできる「楽しいこと」をたくさん見つけて持っておくことも、気分転換やストレス耐性には大切です。それと同時に「楽しもう」とする心の余裕を養うことが、真の「人生を楽しむ」態度に繋がります。これは、平日頃の小さなことや少し面倒なことを「どうせやるなら楽しんでやろう」とする訓練の積み重ねの結果です。人は「楽しいこと」が起きるから「楽しい状態」になると考えがちですが、「楽しんでいる状態」になればこそ既にある自分の身の回りの出来事が「楽しくなる」のです。出来る人ほど心のゆとりがあり、「楽しみ上手」です。いや、むしろ心のゆとりを持とうと意識的な努力をすれば出来る人になり、周囲からは「あの人、いつも楽しそう」に見えるのでしょう。夏休みも「前向きに 直向きに」自分の生活や学習を「楽しむ」子どもたち一人一人であることを、心から願っています。

これを読み返してみると、4～7月の学校や子供たちの様子、夏休みに向けた考え方は、今年度も大きくは変わりません。地域との関わりに制約ができたたり、5年生「宿泊研修」や6年生の「京都・奈良」の旅ができなくなったりしましたが、岐阜小学校子供たちは、今年度も「with コロナならではの成長」を遂げています。7月になってからも、土曜授業日をはじめ各学年で趣向を凝らしながらよく学び、「ふるさと大好き」に迫っていると感じています。

また、今年度特有の夏休みの「楽しみ」としては、東京五輪があることではないでしょうか。「無観客での開催」については賛否両論あることと思いますが、“努力を含めた才能”に溢れるアスリートたちの競演は、絶対に“一見の価値あり”だと思います。STAY HOMEでの「テレビ観戦」から得るものや学ぶことは、必ずあると思っています。とは言え、プール開放をはじめ、サマースクールや地域行事のなくなる今年度の「夏休み」は、エアコンのある部屋に入り浸る生活となり、発育や健康の面で影響が出ないかが心配です。だからこそ「〇〇家の夏休みのめあて」（柱）を、追求できるようにしてください。長い夏休みにしかできない体験、家族との会話、家での仕事、自主学習、…教育目標の「自ら求め」の具現に向け、40日間を無駄に過ごさせないよう、各家庭での見届けをよろしくお願いいたします。



学校だより

令和3年度 第4号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年6月30日

岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 難局を乗り越え 期待に応える「学校の教育力」

校長 藤田 忠久

6月21日(月)は、梅雨の晴れ間の好天に恵まれ、予定通り2時間目に4年生、3時間目は1年生とひまわり学級、4時間目が6年生、5時間目に5年生が、水泳学習を始めることができました。翌22日(火)も晴れ間が続き、2年生が2時間目、3年生が5時間目に水泳学習を始められ、二日間で全校児童の「プール開き」を行うことができました。

校長の「学童期に2年連続で水泳を経験しないことは泳げない大人を生み出す可能性もあるので、何としても水泳中止は避けたい。」という“意”を汲み取り、岐阜市の「水泳実施チェックリスト」をクリアできるように事前指導の徹底を図り、プールでは学級担任に教務主任等が加わる3人以上の指導体制を敷いてくれました。「水に親しむ子を育てる」という願い(目的)をしっかりと受け止めた子供たちは、水泳学習に取り組む“心意気”を、プールでの姿や動きで表してくれています。給食時間同様「マスクを外したらしゃべらない」約束を守りながら、学習活動に専念する子供たちは本当に誇らしく、校長が目指す「with コロナの難局を学校の教育力で乗り切る」という岐阜小学校の真骨頂が見られ、心から嬉しくなりました。

昨年度から「『安全』管理の徹底も大事だが、それ以上に教育活動への信頼によって『安心』を担保することを目指したい。例えば、使った“用具や器具の消毒”よりも、用具や器具を使った後の“手洗い・手指消毒”を徹底する。新型コロナ対応も熱中症対策も、正しい知識と確かな行動に繋がる指導をすることで、子ども自身が適切にマスクの着脱をしたり、子供同士で3密回避を呼びかけ合ったりするなど、一人一人の児童が入念な対策を講じられるようにする。」としてきた方向性が、子どもの姿として実を結んでいると感じています。

そんな岐阜小学校に、第77回 日本PTA 東海北陸ブロック研究大会「清流の国ぎふ大会」の実行委員会から「10/23の全体会アトラクションで『英語でふるさと自慢』の発表をして欲しい。」という出演依頼がありました。その後、コロナの感染状況から「PTA 東陸大会は動画配信での開催」という判断がなされ、改めて実行委員会担当者がアトラクションの持ち方についての相談に来られ、「大会主題『GIFT ～かけがえのない贈り物を子どもたちへ 岐阜人(ぎふと)から～』を踏まえ、『岐阜市の教育』を岐阜小学校の実践を通して紹介する形をとる。当初予定していた単なる『小学生による英語でふるさと自慢』の活動紹介というより、岐阜まち(岐阜市)に愛着と誇りをもつ岐阜小学校の『ふるさと学習』の取組の延長上に『外国人観光客に岐阜を紹介して観光誘致に繋げる』という目的で行っている英語教育の一端があることが分かるビデオ動画を作成して配信する。」ということになりました。岐阜県・岐阜市の代表として、6年生の思い出に残る「卒業記念」にもなるように、全力で取り組みたいと思います。

また、国土交通省(木曾川上流河川事務所)からも「9/12のシンポジウム『長良川9.12豪雨災害から45年』で、防災教育の取組を発表して欲しい。」という依頼がありました。金華・京町の両公民館からも、「11/28『第3ブロック地域人権学習推進事業』で、学校の人権教育を発表してもらえないか。」と依頼されています。

これまで、多くの方々に支えられながら教育活動を進めてきたことへのお礼の意味も込め、総合的な学習「ふるさと学習」や英語学習、児童会活動等の成果を発表する場であり、更なる成長に繋げられる機会と考え、これらの依頼を全部受けることにしました。「岐阜小学校の教育力」で、期待に応えていきたいと思ひます。

学校だより

令和3年度 第3号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年5月31日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 児童会スローガン「全力で取り組む」

校長 藤田 忠久

テレビ放送による5月の「児童集会」で、令和3年度（前期）「児童会スローガン」を『全力で取り組む』とし、「おすすめ（大きな声で、進んで、目を見て）あいさつ」「思いやり」「ふるさと大好き」の三つをキーワード（重点活動）にしていくことが、前期代表委員から発表されました。これまでも、代表委員会が力を入れてきた「あいさつ」への取組が「全力」になることや、全ての委員会活動で相手や仲間への「思いやり」が意識された取組となることを、とても楽しみにしています。コロナ禍で“特別な”令和2年度には、子どもたちがタブレット端末を駆使した情報発信（昼の放送）をするなどして、工夫された児童会（委員会）活動が展開されました。with コロナの令和3年度は「思いやり」に繋げる目的をもって、一層充実した活動となるよう「全力で取り組む」子どもたちに大いに期待したいと思います。



また、昨年度から引き継いで書いてきた「よさ見つけカード」の用紙を使い、新たに「ふるさと♡あい♡」の取組を始めることも、代表委員から発表（提案）されました。この「ふるさと♡あい♡」の「あい」には、「愛（大好き）」だけでなく「（ふるさとの一員である）I」として「相手」や「（地域の人との出）会」を大切に、ふるさととのよいところや好きなことの「（伝え）会」という意味が込められています。全校のみんなが「ふるさと♡あい♡」をいっぱい見つけ、掲示板がカードで埋め尽くされることを楽しみにしたいと思います。



ところで、重点に「ふるさと大好き」を掲げ、「ふるさととの素敵なおところ」を見つける活動を考える「児童会」は、日本中の小学校を見渡しても大変“希有”な存在だと思います。高学年の子どもたちにとって、一昨年度までは当たり前だと思っていた「コミュニティ・スクールとしての岐阜小学校の取組」が、昨年度は大幅に制限されてしまったことに、淋しさを痛感したのではなでしょうか。朝の「読み聞かせ」、放課後「ふるさとスクール」、夏休み「サマースクール」、秋の大イベント「ふれあいフェスタ」が見送られてしまったこと、コミュニティ・ティーチャー（地域の外部講師）や「にっこり見守り隊」等の地域の皆さんとの交流の機会が減ってしまったことなどは、やはり大きなショックだったと思います。その他、春の「岐阜まつり（道三まつり）」、夏の「大仏フェスティバル」「花火大会」「盆踊り大会」など、自慢の地域行事に参加できなくなったこと、「インリーダー研修会」等の「子ども会」の活動ができなかったことも、本校児童にとっては大きな痛手になりました。これらのことを自分たちにとっての問題だと捉え、「ふるさととの素晴らしさを忘れることなく、低学年の子たちにも継承しなければ…」と考えて、児童会活動に「ふるさと大好き」の取組を取り入れる子どもたちを、とても誇らしく思います。

また、総合的な学習の時間を中心に「ふるさと学習」を進めている岐阜小学校ですが、6月4日には道徳教育やカリキュラム・マネジメントの研究の一環として、6年1組が道徳「地域の人々を支えるもの」の研究授業を行い、ふるさととの文化や歴史等に親しみ、国や郷土を愛する心や態度を育てるための特別の教科「道徳」の時間の在り方についての話し合いをします。

学校だより

令和3年度 第2号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年4月30日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 『創意工夫』のある「ようこそ1年生の会」

校長 藤田 忠久

一昨日（4/28）の朝活動の時間に、テレビ放送集会の形式で「ようこそ1年生の会」を行いました。学校HPでも紹介したのですが、一昨年度までは「入学式」の中で6年生が行ってきた「歓迎セレモニー（寸劇）」を、昨年度は「入学式」に制約ができて6年生が参加できなくなり、学校再開後の6月下旬に、これまでの「1年生を迎える会」を改称して、テレビ放送による「ようこそ1年生の会」としてビデオ映像を流しながら、本番当日の1年教室や廊下でのライブ感も加え、1年生を迎える会を執り行いました。今年度も「入学式」に参加できなかった6年生が、昨年度の「ようこそ1年生の会」をもとにシナリオを書き換え、アレンジ版の「歓迎セレモニー」を創りました。限られた時間の中で子供たちが主体的に知恵を出し合い、自ら行動に移して、役割分担や練習、当日のリハーサルなどの準備を進めてきました。学校内を紹介する意味も込め、シーンを区切りながらいろいろな場所を使って各担当者が紹介するビデオ編集となっていました。特筆すべきは、シナリオ作成、ビデオ撮影～編集など、昨年度まで教師が担ってきた作業も、6年生実行委員の児童の手で行われたことです。「姿勢名人」カードへの取組も加えた内容で、今年度のキーワード『創意工夫』を具現する素晴らしい取組となりました。



この「歓迎セレモニー」では、岐阜小学校の“宝物”として、歌詞に「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」が含まれる「校歌」の紹介が引き継がれました。今年は「岐阜県『第4波』非常事態宣言」が発令されたため、3月の「6年生からのお礼の会」のような当初計画していた全校合唱はできなかったのですが、平成30年度の6年生が吹き込んだ「校歌」のCDを、歌詞カードを見ながら全校で鑑賞しました。1年生の入学時に「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」を大切にすることを約束する「校歌」との出会いですが、6年間の学校生活で大きな成長を遂げる岐阜小の子供たちは、歌詞全体に込められた願いを全身で受け止めて巣立っていきます。最後に、3月25日に行った前年度「卒業証書授与式」の「校長式辞」の一節を紹介します。

「青空見上げて 世界のことを思おう 全ての国へと続いているから」…この世に生命を授かった世界中の人々、その一人一人が かけがえのない存在であり、それぞれに大きな可能性を秘めています。貴方達も、その一人一人です。世の中で起きていることに対して当事者意識をもちながら、自分の個性や特長を大切にし、自分らしさを生かして欲しいと思います。「幸せに向かって 新しい風が吹く」貴方達は、岐阜小学校の卒業生です。

学校だより

令和3年度 第1号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和3年4月8日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 進級・入学 おめでとうございます ～「創意工夫」で学び・育ちを推し進める with コロナ の令和3年度～

校長 藤田 忠久

爽快な青空が祝福する中、短い春休みを終えて子供たちが学校に戻ってきました。新たな仲間との新たな生活へ決意と、進級の喜びに溢れる新年度の始業となりました。今年度は、残留（継続）職員と転入職員との組み合わせの学年が多く、始業式後に2～6年生の「ミニ学年集会」の時間をもちました。どの学年の子たちも意欲を姿で表し、先生の話を食べるように聴いていました。新しい先生方への反応もよく、どの学年からも期待に満ちた様子が伝わってきました。

午後からは入学式を行い、元気いっぱいの新1年生を職員で迎えました。緊張感の中でも、弾ける新1年生の笑顔から、岐阜小学校での生活へのワクワク感が伝わってきました。

令和3年度は、新1年生45人を加えて全校児童数302人。今年度も、ひまわり学級を含め、全ての学年が、2学級でスタートしました。学校の教育目標『心豊かで 自ら求め 学び合う岐阜小の子ども』、合い言葉『ふるさと大好き』に向かって、児童と職員総勢336人で「成長を実感できる岐阜小学校」を創っていきます。変わらぬご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。

昨日のテレビ放送による「始業式」で校長は

令和3年度の岐阜小学校のキーワードを『創意工夫』としたいと思います。創意工夫とは「今まで誰も思いつかなかったことを考え出し、それを行うためのよい方策をあれこれ考えること。『創意』は、新しい思いつきや今まで考え出されなかった考え。『工夫』は、物事を実行するためによりよい方策をあれこれ捻り出すこと。」という意味です。令和2年度は、コロナ禍で“特別な”1年でした。しかし、with コロナの続く今年度は、もう“特別な”1年とは呼べません。「岐阜小学校が大切にしてきたこと（行事や活動）」や「コロナ禍の昨年度に生み出したこと（テレビ放送活用の取組等）」を単に引き継ぐだけでなく、どんな状況下においても『新しい文化を創り出す』ことが『岐阜小学校の伝統』となっていくとよいと思っています。

という話をしました。「前向きに 直向きに」取り組む中で、『創意工夫』にこそ、意味や価値を見出す1年としたいと思います。“あれこれ”考え、捻り出すためには「試行錯誤」も必要になります。

「with コロナ」で先行き不透明な部分も多く、急な変更を余儀なくされるかもしれません。そんな中で元に戻すだけではない「after コロナ」を見据える意味からも、今年度も「実践しながら常に最適を目指して新たな実践を繰り返していく」サイクルの「d・cap-Do！」で学校経営を進めます。

※「d・cap-Do！」とは、「従来のPDCA (plan-do-check-act) サイクルではなく、過去や現在よりも未来に目を向け、その未来に働きかけることで、より多くの価値、成果、幸福を生み出すことができるという考え方で、ゴールそのものと そのためのアクションを 自動的に補正しながらプロセスが繰り返されるイメージ」の「フィードフォワード→アクション」(FFA) プロセスという思考も生かしながら、「まず実行し、振り返り・改善・次の計画を、ほぼ同時に進め、新たに実行する」フレームワークです。

